

2/4 ロンドン五輪をめざす佐々木監督が熱血指導

練習の最後には質問の時間も持たれました



子どもたちの目線になって指導いただきました

まちのわだい Camera Spot



昨年のFIFA女子ワールドカップドイツ大会で、監督としてなでしこジャパンを優勝に導き、女子年間最優秀監督賞を受賞した佐々木則夫氏を講師に迎えて開催された、次世代育成支援スポーツ事業「サッカー教室」。世界一の指導者のコーチングを受けようと、小学校から高校までの女子と小学校5・6年生の男子ら180人が、会場のビバ・スポルティアSAIJOに集合しました。

佐々木先生は、チームとして強くなるには「ひたむきさ・明るさ・礼儀正さ・芯の強さ」が必要であることや、サッカーは攻撃と守備の切り替えが大切であることなどを、分かりやすくユーモアを交えてお話しされました。元日本女子代表の方にもアシスタントコーチとして加わっていただき、個々のレベルに合わせて行った実技指導では、参加者は目を輝かせながらボールを追っていました。

2/4 走る・投げる・跳ぶ ハンドボールの魅力体験

日本ハンドボールリーグ所属のHC名古屋の皆さんが、翌日の試合を前に開催したジュニア講習会には、市内外から多くの小学生が参加しました。ハンドボール未経験者でしたが、選手の皆さんの笑顔で優しい指導により、最後には豪快なシュートを放つほどにまで上達した参加者もいました。

2017年に開催予定のえひめ国体を見据え、市内のハンドボール人口の増加が期待されています。



この中から国体選手が生まれるかも



国内最高リーグのパフォーマンスを目撃!



▲ソニーセミコンダクタとHC名古屋が対戦

多くの日本代表選手がプレーする日本ハンドボールリーグ女子のレギュラーシーズンの試合が、2月5日に総合体育館で開催されました。

テクニク・スピードともに国内最高レベルのプレーを観戦するために駆けつけた観客の皆さんは、迫力ある攻防や宙を舞う華麗なシュートが放たれるたびに大きな声援を送っていました。



攻守の展開が早く、手に汗握る大迫力

チームのプライドを1本のタスキでつなぐ

「後は任せましたぞっ」「ようしゃあー!」



1月29日、ビバ・スポルティアSAIJOと東予運動公園内のコースで開催された駅伝競走大会には、96チーム・679人ものランナーが集い、寒風をものともせず健脚を競いました。チームメイトから受けとったタスキを次走者につなぐための懸命な走りの中、順位がアップダウンしそうになると仲間の熱い声援が選手の背中を強力に後押ししていました。

汗の染みたタスキがランナーを後押し

市内の元気あふれる小学生千人近くが勢ぞろいした「ちびっこ駅伝大会」は、1月15日ビバ・スポルティアSAIJOをスタート・中継・ゴール地点とした東予運動公園内の周回コースで行われました。昨年は悪天候により中止となったため、1・2年生には初めての大会となりましたが、大援の中選手たちはチームのタスキをつないで力走しました。



沿道には途切れることのない声援が